

所属・資格 社会学科・教授

申請者氏名 石岡 丈昇

研究課題		マニラの下層社会をめぐるエスノグラフィー研究
報告の概要	研究目的 および 研究概要	本研究は、マニラ首都圏郊外に立地する都市貧困層の再居住地（resettlement sites）を事例に、立ち退きおよびその後の再居住地への移住が、貧困層のさらなる貧困化を引き起こすメカニズムを解明する基礎資料を作成するものである。具体的には、所帯構成の変化に注目することで、以前に都心のスクオッター地区に居住していた時の所帯構成と現在の再居住地でのそれを比較検討する基礎資料をエスノグラフィの手法を用いて作成し、空間移動と貧困化の密接なつながりを捉えるものである。
	研究 の 結果	本研究を通じて、空間移動が所帯構成の変化と結びついている点が明らかになった。都市貧困層は、一般的に、貧困の状況下を柔軟な所帯構成によって生き抜く。この点は、マニラ首都圏のスクオッター地区の平均所帯員数が7名であるという統計的事実にも表れている。すなわち「夫婦とその子ども」だけでなく、非血縁者である友人や同郷出身者なども居候することで、誰か一名が失業しても別の者が働くことで所帯全体の収入を確保し、さらには空いている者が家事・育児を担当することで「全体で」生活を回していることがわかる。しかしながら、再居住地に移住を余儀なくされると、平均所帯員数は4名に減少することが明らかになった。
	研究 の 考察・ 反省	本研究は、マニラ首都圏を事例に、昨今の特区開発を伴う都市再開発が、どのように都市貧困層の立ち退きと「さらなる貧困化」を引き起こしているのかという大きな問いに迫る有力なデータを提供するものであると考えられる。引き続き調査を継続し、「さらなる貧困化」の過程を詳細に考察したい。
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所 研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者	<p>※この欄は、本報告書提出時点で判明している事項についてご記入ください。</p> <p>石岡丈昇 2024「ローカルボクサーと貧困世界——マニラの事例から」丸山里美・太郎丸博編『岩波講座社会学6巻 労働・貧困』岩波書店。</p> <p>石岡丈昇 2025「生（ライフ）の二重性を捉える社会学へ——biographical life と biological life をめぐるエスノグラフィ」『現代社会理論研究』19号：27-39。</p>	